

新社会派

1962 / 8

季刊 日曜作家

創刊号

労働北九州

創刊号 1963 4

北九州、文化運動

製鉄文化

青いボン

の

1945 - 60年代の八幡製鉄所の周辺



1949. 4.



第一号

の軌跡

鉄と花

えすぎふと

創刊号 1964 10

2023年
3月1日(水) ~ 3月31日(金)

※最終日は16:00まで [入場無料]

会場 | 北九州市立文学館 企画展示室

[開館時間] 9:30 ~ 18:00 (入館は17:30まで)

[休館日] 月曜日(祝日の場合は翌日休館)

主催 | 北九州文化運動研究会 (代表: 西田心平)

共催 | 北九州市立文学館

オモテ面掲載資料は全て北九州市立文学館所蔵

同時開催

第二回 日本現代川柳作家展

主催/川柳くろがね社 共催/北九州市立文学館 後援/福岡県川柳協会

NO. 1

文化運動

とは文芸や芸術の活動を通じて
人々の意識を束ねる様々な働きかけのことをいいます。
その活動には多くの場合、雑誌などの表現媒体が存在しました。
それが同人誌やサークル誌、職場雑誌です。

「手押車」創刊号
八幡製鐵所美術サークル版画グループ
一九五〇・二「八幡図書館所蔵」

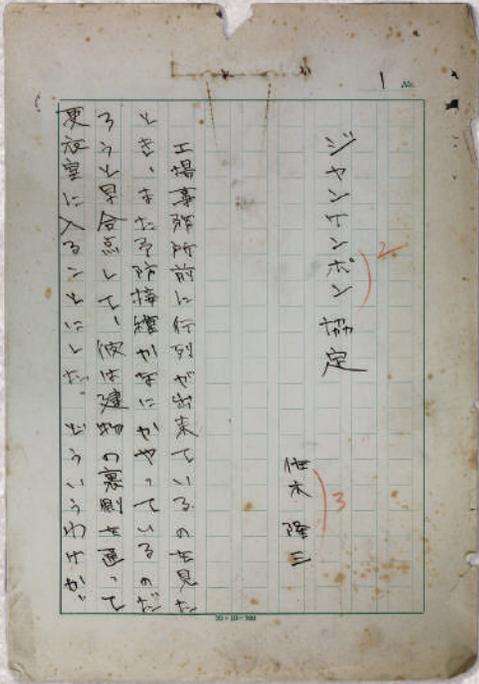


「周笑」創刊号
創作研究会一九八九・六「八幡図書館所蔵」



「創作研究」創刊号
八幡製鐵所内創作研究会
一九四九・二北九州市立文学館所蔵

佐木隆三「ジャンケンボン協定」自筆原稿
「新社会派」2号一九六二・二「北九州市立文学館所蔵」



北九州

には文化運動が盛んだった時代があります。
本展覧会では主に戦後40年代～60年代に照準し、
八幡製鐵所の企業城下町という労働者の街で育った
文化運動の軌跡に目を凝らします。

第1部

分断と抑圧

(前史：1920年代
～1940年代半ば)

官営八幡製鐵所の操業が1901年。約20年後に大争議が起き、
会社は労務管理を強化します。職場で生まれた最初の刊行物が
「くろがね」(1919)などの社内報でした。

第2部

断絶と連続

(戦後初期：1940年代半ば
～終わり)

戦後初期、八幡製鐵所では産業報国会が解体しその役割を
親和会が引き継ぎます。八幡製鐵労組から「熱風」が創刊され、
親和会からは「製鉄文化」が刊行されます。

第3部

復興と展開

(戦後：1950年代)

八幡製鐵労組が母体となり「手押車」や「童研」など様々な雑誌が
刊行され、文化活動が展開します。「日曜作家」など職場を基盤
とした仲間をつくる同人誌が発行され始めるのもこの時期です。

第4部

成長と闘い

(1960年代)

職場内にとどまらない文化サークル運動が展開し、「日曜作家」
「新社会派」「労働北九州」「緑と太陽」「えすぎぷと」などの雑誌を
刊行した佐木隆三らが北九州での労働者の闘いを牽引します。

本展はJSPS科研費JP18K02036の助成を受けたものです。

北九州文化運動研究会

代表	西田 心平	(北九州市立大学教員)
	川口 隆行	(広島大学教員)
	楠田 剛士	(宮崎公立大学教員)
	高山 智樹	(北九州市立大学教員)
	坂口 博	(火野葦平資料の会会長)
	稲田 大貴	(北九州市立文学館学芸員)
	茶園 梨加	(宮崎大学非常勤講師)
	奥村 華子	(名古屋大学大学院生)
	小島 秋良	(名古屋大学大学院生)

<https://kitakyu-bunka.sakura.ne.jp>



Access

北九州市立文学館

〒803-0813 北九州市小倉北区内4番1号
TEL:093-571-1505



- ◆JR小倉駅
-徒歩15分
- ◆JR西小倉駅
-徒歩10分
- ◆勝山公園バス停
-徒歩1分
- ◆北九州市役所前バス停
-徒歩2分
- ◆小倉北区役所前バス停
-徒歩2分

■駐車場は文学館最寄りの各有料駐車場をご利用ください

<https://www.kitakyushucity-bungakukan.jp>

